

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

水と緑がにあうまち再生計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

長野県

長野県伊那市

3 地域再生計画の区域

伊那市の全域

4 地域再生計画の目標

伊那市は、長野県南部に位置し、人口 64,397 人(平成 17 年 4 月 1 日現在)、面積 207.64 平方キロメートルの市で、「山なみに水と緑がにあうまち」をキャッチフレーズとしております。このキャッチフレーズは、南アルプスと中央アルプスに抱かれ、市内を天竜川、三峰川が流れる、水と緑が豊かで自然に恵まれた伊那市をイメージしたものです。この恵まれた地域資源である自然を守りながら有効に活用することによる、自然に優しい「水と緑の循環型社会」の形成を目標としております。

「水の循環型社会」としては、天竜川や三峰川をはじめとする 1 級河川を浄化し、支流の清流を守るため、污水处理施設整備を進め、さらに、污水处理施設整備完了区域での下水道への接続を促進するために下水道展等を開催することにより、恵まれた自然(水)環境を維持・改善します。

また、魚の放流や水生生物調査、水質調査を実施する「川シンポジウム」の開催を通して、自然(水)環境に接する機会を創出し、市民の自然(水)環境に対する関心を高め、また、河川環境をボランティアにて考え、実践する「三峰川みらい会議」をはじめとする市民団体等の活動に協力します。

これらの事業により、市民が身近に感じられ、市民が主体となる「清らかな水の循環」の実現を目指します。

「緑の循環型社会」としては、木の持つ良さが見直されているなかで林道を整備することにより、間伐や集材等の林業作業を軽減し、森林・林業の振興を図ることにより、「災害に強い森林」、森林レクリエーション等による「みんなが楽しめる森林」の実現を目指すとともに、市民等が参加する林業ボランティア活動を積極的に支援し、また、ボランティア活動を体験できる事業を開催す

ることにより、森林の持つ重要さを多くの市民が体験し、森林(自然)への関心を高めます。

さらに、林業作業により発生する間伐材等を自然エネルギーである「木質ペレット」として活用するために、公共施設及び公共的施設に木質ペレットストーブの積極的な導入を行い、木質ペレットストーブの持つ温もり、素晴らしさを体感する機会を増やし、また、木質ペレットの製造を行っている上伊那森林組合の事業に対し、木質ペレットストーブの幅広い利用を促進するために、安価で木質ペレットを製造出来る体制の整備を支援します。

これらの事業により、地域全体での「自然資源(緑)の循環」の形成を目指します。

污水处理施設整備による「清らかな水の循環」、森林整備により発生する間伐材等を木質ペレットとして活用する「自然資源(緑)の循環」、これらの循環を大切にしながら、自然とともに生きる「水と緑の循環型社会の形成」を目指します。

(目標1) 污水处理施設整備の促進

(污水处理人口普及率を市全体で 79.4% から 88.2% に向上)

(目標2) 森林間伐整備の促進

(5カ年の計画期間中に伊那市全体森林面積 12,000ha のうち 2,000ha の山林で間伐整備の実施)

(目標3) ペレットストーブ導入促進

(公共及び公共的施設におけるペレットストーブ導入数

23 施設 100 施設)

5 目標を達成するために行う事業

(5-1) 全体の概要

伊那市の污水处理施設は、地域特性に合わせ「公共下水道事業(特定環境保全公共下水道含む)」「農業集落排水事業」「合併浄化槽」の3事業にて実施しております。

今回の污水处理施設整備は、公共下水道事業の特定環境保全公共下水道事業区域内の管渠布設及び処理場の増設を実施します。農業集落排水事業は、市内各地区で完了しているため、残された公共下水道区域の整備を促進する事により、また、地域特性により伊那市合併浄化槽指定区域に指定された区域内で合併浄化槽の設置を推進することにより「清らかな水の循環」を目指します。

道路網整備は、林道である大曾倉線及び新山線を整備することにより、林業振興を図るとともに、自然を体験するためのアクセスを改善し、自然を楽しむ機会を創出します。

また、市道路線（福島沢岡線、桜井河原線、桜井殿島線、美篤中部線）を新設・改良することにより、林業資源である間伐材を活用した新エネルギー「木質ペレット」製造のための集材及び製品の出荷をスムーズに行い、林業の振興を図るとともに、市内緊急改善必要箇所を解消を図ります。

これら道路網の整備により、自然資源を活用する「自然資源（緑）の循環」の形成及び自然とふれあう機会の創出を図ります。

これらの事業により、地域再生計画の目標である「水と緑の循環型社会の形成」を実現します。

（５－２）法第４章の特別の措置を適用して行う事業

１ 道整備交付金を活用する事業

[施設の種類（事業区域）、実施主体]

- ・市道（伊那市） 伊那市
 - 市道福島沢岡線（市道認定 S58.3.31 路線番号 2006）
 - 市道桜井河原線（市道認定 S58.3.31 路線番号 3060）
 - 市道桜井殿島線（市道認定 S58.3.31 路線番号 0109）
 - 市道美篤中部線（市道認定 平成 17 年 12 月議会議決予定）
- ・林道（伊那市） 伊那市
 - 林道大曾倉線（第 11 期伊那谷地域森林計画書 計画路線）
 - 林道新山線（第 11 期伊那谷地域森林計画書 計画路線）

[事業期間]

- ・市道（平成 17～21 年度）
- ・林道（平成 18～21 年度）

[整備量及び事業費]

- ・整備量 1.71km
 - 内訳 市道 1.31km
 - 林道 0.40km
- ・総事業費 6.1 億円
 - 内訳 市道 5 億 5 千万円（うち交付金 2 億 7 千 5 百万円）
 - 林道 6 千万円（うち交付金 1 千 8 百万円）

２ 污水处理施設整備交付金を活用する事業

[事業主体]

- ・いずれも伊那市

[施設の種類]

- ・ 公共下水道
- ・ 浄化槽

[事業区域]

- ・ 公共下水道 伊那市大萱地区、殿島地区、美篤地区、竜東北部地区
(各地区とも認可済)
- ・ 浄化槽 伊那市合併浄化槽指定区域(新山地区、内の萱地区、平沢・横山・ますみヶ丘地区、大坊地区、小屋敷地区)及び下水道整備認可取得が7年以上先の地区

[事業期間]

- ・ 公共下水道 平成 17 年度 ~ 平成 21 年度
- ・ 浄化槽(個人設置型) 平成 17 年度 ~ 平成 21 年度

[整備量]

- ・ 公共下水道 150 ~ 400 37,200m
処理場(増設) 2カ所
- ・ 浄化槽(個人設置型) 5人槽 35基
7人槽 193基
10人槽 20基

なお、各施設による新規の処理人口は下記のとおりです。

公共下水道：4地区合計で6,115人

浄化槽：合併浄化槽指定区域他で1,210人

[事業費]

- ・ 公共下水道 4,881,500 千円
(うち、単独 443,700 千円)
(うち、国費 2,263,600 千円)
- ・ 浄化槽(個人設置型) 102,093 千円
(うち、国費 34,031 千円)
- ・ 合計 4,983,593 千円
(うち、単独 443,700 千円)
(うち、国費 2,297,631 千円)

(5 - 3) その他の事業

「清らかな水の循環」関係

- ・魚の放流や水生生物調査、水質調査を実施する「川シンポジウム」の開催を通して、自然(水)環境に対する市民の関心を高めます。
- ・「三峰川みらい会議」をはじめとする市民団体等の活動に協力します。
- ・下水道展等を開催し、汚水処理施設整備完了区域の接続を促進します。

「自然資源（緑）の循環」関係

- ・木質ペレットストーブを公共施設に積極的に導入し、さらに、公共的施設である地域公民館・集会所への導入に対して助成を行います。
- ・林業ボランティア活動により、森林の持つ重要さを体験し、森林(自然)への関心を高めます。
- ・ペレットストーブの普及のため、ストーブ燃料である「木質ペレット」を製造している上伊那森林組合の事業に対し、より安価で販売できる体制の整備に向けて支援します。

6 計画期間

平成 1 7 年度 ~ 平成 2 1 年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

庁内関係部署で地域再生計画の確実な進行管理を行うとともに、計画終了後に、4 に示す数値目標に照らし状況を調査、評価し、公表する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

汚水処理施設の整備を推進するとともに、市民に対し下水道への接続の周知を行い、河川環境の更なる改善を図る。